

令和6年度 DMO成果報告会

若者・高校生地域探求実践プログラム 発表資料

主催：葛巻町

運営：特定非営利活動法人SET

発表者：佐々木里樹

発表日：2025/3/18

本事業の概要

目的

葛巻高校生等が地域探求活動を通じて地域づくりに深く関わることによって次世代を担う観光地域づくりの担い手を育成するとともに、「若者や高校生が住みたくなるまち」の実現によって地域の活性化を図る。

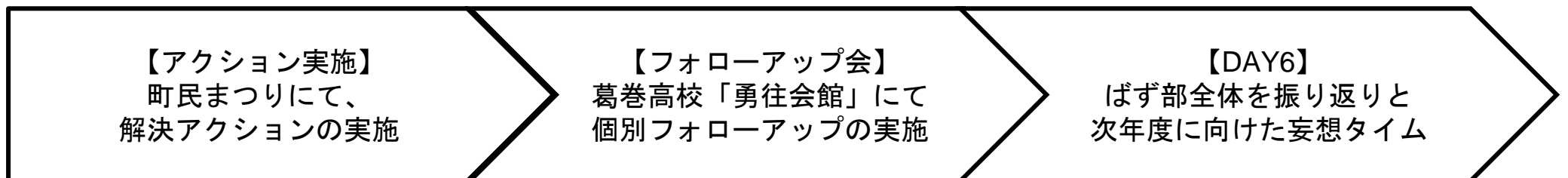
内容

- ・ 高校生が自己の興味関心と紐づいた課題を設定、町内でのアクション
- ・ 全6回以上の講座の実施

ターム1



ターム2



本事業の概要

目的

葛巻高校生等が地域探求活動を通じて地域づくりに深く関わることによって次世代を担う観光地域づくりの担い手を育成するとともに、「若者や高校生が住みたくなるまち」の実現によって地域の活性化を図る。

内容

- ・ 高校生が自己の興味関心と紐づいた課題を設定、町内でのアクション
- ・ 全6回以上の講座の実施

ターム1

【だべり場】
広報を兼ねたWS体験
→1,2年生の授業へ

【DAY1】
『問い』と『仮説』
の立て方の習得

【DAY2】
調査アクションの計画
を建てよう

【DAY3】
調査アクションの振り返り
と
解決アクション計画

ターム2

【アクション実施】
町民まつりにて、
解決アクションの実施

【フォローアップ会】
葛巻高校「勇往会館」にて
個別フォローアップの実施

【DAY6】
ばず部全体を振り返りと
次年度に向けた妄想タイム

(1) 若者や高校生による地域探求プログラムの実施【だべり場】

【葛巻高校での『だべり場』の実施(1年次、2年次)】

<日時・対象>

5月29日 14:35～15:25 (20分) : 2年生

5月29日 15:35～16:25 (50分) : 1年生

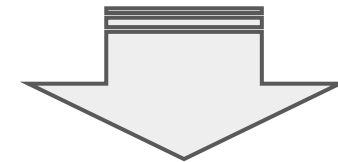
<目的>

高校生主体で取り組む町の地域活性化事業内容のイメージを持ち、課外活動の一つの選択肢としてもらう

<内容>

冒頭ははず部についての説明を行い、実際にプログラムを体感してもらうために「葛巻町バズらせるアイデアを10個以上考えよう！」という目標を設定した。実際に近くの人とチームを作りアイデアを出し合い、その中で一番バズりそうなアイデアに対して投票で一つ決め、全体に共有した。

なお、この取り組みは以降のはず部への広報活動も兼ねており、葛巻高校にご協力いただき、総合的な探究の時間のコマを2コマ使用させていただき、実施した。



【申込者数】

11名

→1年生 : 7名




→2年生 : 4名

全体の内、7名が山村留学生



(1) 若者や高校生による地域探求プログラムの実施(ターム1)

<ばず部(ターム1)ワークショップ実施概要>

日付	参加人数	集合写真	内容
7月14日	7名		「アクション立ち上げにおける『問い』と『仮説』の立て方を習得しよう」 『問い』と『仮説』の立て方についてレクチャーを行い、学んだことを基に、実際に自分自身の気になるテーマについてマインドマップ(問いだし)を作成し、解決したい問いについてアクション計画を立てた。
8月1日	5名		「調査アクションについて知り、計画を立てよう」 解決アクション計画のブラッシュアップを行い、チームを結成した。また、解決アクションに向けた調査アクションについてレクチャーを行い、学んだことを基に調査アクション計画を立てた。
8月25日	4名		「調査アクションを振り返り、解決アクション計画を完成させよう」 調査アクションの振り返り、今後5ヶ月間の計画づくり。地域の大人や大学生に発表し、応援してもらう。

ばず部2年目
実施に際して

高校の「総合的な探究の時間」で、近しい活動がある
=授業の中でも活かせる「インプット」を意識

昨年につき、サポーターとして県内大学生に意識的に参画してもらう

(1) 若者や高校生による地域探求プログラムの実施【アクション実施】

10月12日、13日に行われた葛巻町民まつりにて、8月に計画を立てた解決アクションを実行

日付	実施者情報	概要
10月12日 10月13日	1年生 山村留學生	葛巻町に住んでいる人々や、実際に特産品の製作に携わっている人から見た「葛巻のいいところ、魅力」を聞き込み調査した。
10月12日	2年生 葛巻町出身	葛巻町のアルバム第一弾を作成。その後「葛巻町に住む人が思う葛巻町の好きな場所、好きな風景」をアルバムにするために、町民まつりで意見を募った。
10月12日 10月13日	2年生 山村留學生	葛巻の高齢者が元気なのはなぜか、元気になるには何が必要かの観点を踏まえて乳製品を見直し、ヨーグルトに関する街頭インタビューの形式で調査を行った。



アクション実施の様子

▶ **はず部2年目実施に際して**
はず部の活動(学校以外の課外活動)に取り組む葛巻高校生と地域住民の接点が生まれる
機会の創出への挑戦

本事業の概要

目的

葛巻高校生等が地域探求活動を通じて地域づくりに深く関わることによって次世代を担う観光地域づくりの担い手を育成するとともに、「若者や高校生が住みたくなるまち」の実現によって地域の活性化を図る。

内容

- ・ 高校生が自己の興味関心と紐づいた課題を設定、町内でのアクション
- ・ 全6回以上の講座の実施

ターム1

【だべり場】
広報を兼ねたWS体験
→1,2年生の授業へ

【DAY1】
『問い』と『仮説』
の立て方の習得

【DAY2】
調査アクションの計画
を建てよう

【DAY3】
調査アクションの振り返り
と
解決アクション計画

ターム2

【アクション実施】
町民まつりにて、
解決アクションの実施

【フォローアップ会】
葛巻高校「勇往会館」にて
個別フォローアップの実施

【DAY6】
ばず部全体を振り返りと
次年度に向けた妄想タイム

本事業の概要

目的

葛巻高校生等が地域探求活動を通じて地域づくりに深く関わることによって次世代を担う観光地域づくりの担い手を育成するとともに、「若者や高校生が住みたくなるまち」の実現によって地域の活性化を図る。

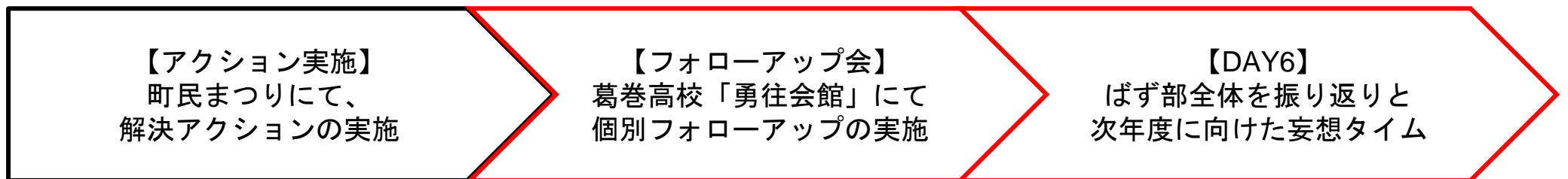
内容

- ・ 高校生が自己の興味関心と紐づいた課題を設定、町内でのアクション
- ・ 全6回以上の講座の実施

チーム1



チーム2

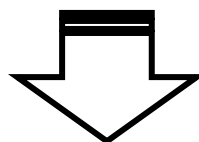




・ワークショップの参加率が思いの外、芳しくない。

→オンラインでのフォローアップも試みたが、
日程の調整コスト等を考えると持続的ではない。

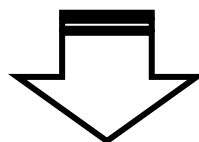
・DAY1～DAY3のワークショップが連続的に設定されていることから、
途中からの参加には、ハードルが上がってしまっている？



原因分析・調査

【主な原因・理由】

1年生：課外活動のばず部も頑張りたい！と思っていたが、思いの外活動等で学校生活が忙しかった→土日の実施では、基本的に部活動や山村宿舎でのイベントと被る



改善策

・葛巻高校生にとって、学校生活の導線に寄り添う形でフォローアップを実施
→葛巻高校「勇往会館」1Fにて、個別フォローアップを週1で実施(10月～12月)

(1) 若者や高校生による地域探求プログラムの実施【ばず部フォローアップ会】

町民まつりを終えての振り返りやプロジェクトの深化に向け、勇往会館で10月末～12月上旬で定期的な活動を実施

参加日付	氏名	概要
10/24 11/8 11/21 11/28 12/12	1年生 山村留学生	自身の出身中学校（久慈市内）に葛巻の良さを伝えるために、葛巻町プロフィール帳を作成。出身中学校にプロフィール帳と感想ノートを置くことをゴールに決め、プロフィール帳の完成までをばず部で進めた。
10/24 11/8 11/21 11/28 12/12	3年生 山村留学生	町民まつりをきっかけにばず部で活動開始。 酪農をはじめ1次産業の担い手不足を解消するために、酪農の実態を知るために調査アクションを実施。バス部活動内では葛巻町でよつば会、酪農ヘルパーの元へ取材。 活動終了後も酪農体験を実施。
11/21	1年生 山村留学生	今年度の活動の振り返りと、来年度はどのようなことを企画してみたいかのアイデア飛ばしを実施。
11/21	1年生 山村留学生	今年度の活動の振り返りと、来年度はどのようなことを企画してみたいかのアイデア飛ばしを実施。
適宜ボランティア大学生とオンラインミーティング	2年生 葛巻町出身	「葛巻町に住む人が思う葛巻町の好きな場所、好きな風景」のアルバムを作成することを目標に活動
適宜ボランティア大学生とオンラインミーティング	2年生 山村留学生	健康食品である「ヨーグルト」の魅力を、葛巻町民/主に高齢者、50代以降に伝えるために、ヨーグルトについての冊子を作成

今年度の活動成果物の写真



ヨーグルトについて調査を行い、まとめた冊子



酪農体験の様子



葛巻町民プロフィール帳



葛巻フォト

(1) 若者や高校生による地域探求プログラムの実施【最終回】

<最終回ワークショップ実施概要>

高校生2名、スタッフ1名ずつのグループワーク

項目	詳細
ブレインストーミング	もしも、来年のばず部の活動のメインが「TikTokでばずらせよう！」になったら？！
振り返り	ワークシート次頁参照
未来妄想テーマトーク	<p>テーマ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生にしかできないことってなーんあだ ・学校の外で遊ぶなら、どんな遊びをしたいか ・放課後に集まれる場所があるとしたら、どんな場所がいいか ・友達がやっていたら参加したくなっちゃう活動ってどんな活動だろう ・学校に部活をもう一つ作るならどんな部活？ ・もしもバズ部員が50人いる部活だったらどんなことができそうか ・町のために僕達ができることってなんだろう ・若者だからこそできるおもしろい町の盛り上げ方って？
発表、感想共有	ここまでの活動を通して、最後に想いを共有して次に進める



【参加者感想：抜粋】

「葛巻には酪農の実態を知るために、山村留学としてきた。卒業後は関東に戻るが、第1次産業の中でも特に酪農とITの融合実現のために、今後も葛巻をフィールドにしたい」として、ばず部の最終回後にもアクションを続行し、自ら酪農体験に赴く動きがあった。関係人口創出にも繋がる可能性が大きくあると予想する。

(1) 若者や高校生による地域探求プログラムの実施

<全体 アンケート結果>

○全体を通しての気づきや学び

・今年とは異なるアクションを取った。去年と比べるとあまり参加できず、活動の機会も少なかったですが、町民祭ではアンケートを実施し、撮影のために町民の方々に声をかけるなど、去年よりも町民の皆さんと関わることができた。その点において、バズ部の活動を通して成長を実感した。また、町民祭での活動を通じて、想像以上に町民の方々が協力的であることに気づきました。これは、実際に行動したからこそ得られた発見だと思う。

・自分たちの興味のあることについて仲間と意見を出し合うことで、新たな発見がたくさんあった。バズ部に参加したことで、以前の自分よりも現在の社会問題について深く考えられるようになったと感じている。

・多くの人に話を聞くなどの調査を行うことで、自分では気づけなかったことや知らなかったことを学ぶことができた。これは、何回か実施されたサテライトオフィスでの活動や、町民祭での調査アクションを通じて得た大きな経験である。

・今年度は他の予定と重なり、あまりバズ部に参加できませんでしたが、途中参加した際やLINEでのやり取りを見て、みんながそれぞれのやりたいことを楽しんでいる様子が伝わり、とても良い雰囲気だと感じた。

・アイデアを出す時間はとても楽しかったものの、実際の活動にはあまり参加できず、また現実的に考えるのが難しい部分もあった。来年はもっと積極的に取り組みたい。

・それぞれのプロジェクトでしっかりとアクションを起こし、頑張っていたのが印象的だった。

・町民の方々がとても優しくかった。

・町民祭りではインタビューを行うことができた。

部活動と日程が重なりやすかった。冬のほうが時間に余裕があり、より活動しやすいと感じた。

まとめ、総括

うまくいった点

1. 町民まつりにてブースを設けていただけのため、ばず部員と地域の方の接続の機会を作れた
2. ばず部参加者の内、2名がマイプロジェクト岩手県Summit(県内最大規模の学びの祭典)に出場
3. 大学生になったら、今度は関係人口としてまたプログラムに参加します！という参加者の声

うまくいかなかった/改善点

1. 事前に予定していたワークショップへの参加者数が少ない
2. 年度当初の参加者数に対して、アクション実施数が少ない

